

# Weekly Bulletin 2023-2024



RI会長  
ゴードンR.マッキナリー



世界に希望を生み出そう

## 静岡東ロータリークラブ

会長/川口尚宜 幹事/宮崎貴久

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長  
川口尚宜

### 第3083回例会

令和5年12月14日

《司会》 宮崎貴久 君

《合唱》 静岡東ロータリー

《ソングリーダー》 大西征直君

《ゲスト》 プロアドベンチャーレーサー田中正人様

《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

・お誕生日

12月16日 栗田 英行君

12月18日 由利 浩志君

12月12日 川崎 依子君

・結婚記念日

12月15日 新聞 桂子君

12月21日 高田 雅司君

《会長挨拶要旨》 川口尚宜 会長

本日は、先週の会長挨拶の最後にちょっとふれた11年前に北欧ノルウェーに給食の視察に行った時に現地で見えてきた話しを数字を交えて国の運営方法から人間の幸せとは?というお話をします。

視察前の北欧のイメージは、高福祉だが重税で夏が短い。将来の安心のために今は我慢しながら生きていく。なんとなく、暗いイメージでした。

ノルウェーの首都オスロにつくとフィヨルドの発端に位置する美しい港町でした。そこで、延々と続くヨットハーバーがありました。オスロの人口50万人に対して明らかに多い数だったので、ガイドさんに「このヨットのオーナーは企業ですか?個人ですか?」と聞いたところ、個人です。との答え。将来のために今は我慢するはずの人たちが

なぜこんなにヨットを持てるんだろう?

再びガイドさんに尋ねてみると、なんとローンを返し終わった家と土地を担保にもう一度目いっぱいの借金をして生きている間に全部使ってしまう。お金が無くなっても国が面倒を見てくれる。子供たちにお金を残す必要もない。自分たちが死んだら家と土地を売って借金を返済して終了。ということで、土地と家1軒分のお金を何に使おうと悩むことになる。

ヨット、別荘、車(ベンツ、BMWが多い)と税金が高くても消費をしていきます。これが経済を回し、付加価値を高めていきます。あくまで11年前の話ですが、たばこ1箱4,000円、ミネラルウォーター1本600円、食事安くても一人14,000円。何でも高く、観光客は買い物ができない。大卒初任給の年収を聞いて驚きの1,500万円。お掃除をする方の年収1,400万円。あ然です。国民1人当たりGDPは、9万7,254ドル(2023年10万1,100ドル=1,516万円)で世界3位(日本530万円)で世界31位)。天然ガス輸出世界2位、原油輸出世界7位。電気は、100%水力発電。本当のゼロエミッションです。国営企業が管理する石油の利益は積立て、国が世界の金融市場に年金基金204兆円を投資して利益をさらに組み入れます(2023年は21兆円)。又、一部は国家財政に補填する。(06年は2.8兆円) 所得税35%+地方税28%=63%の税金に消費税25%。この税金を医療、介護、年金に使う。軍隊も持っています。人口480万人(福岡県500万人)、GDP83兆円の東京都115兆円より小さい経済規模の国が。

ここまで知って、気づきました。この国の人たちの根底にあるものは、“人生は、楽しむためにある!”人間として一

番幸せなことはなんだろう？と考えた時、「明日の心配をせず今を楽しむこと」「何も心配せずに死ぬこと」「自分の人生は楽しかったと死ぬ時に言えること」と考えたことがわかりました。しかも、国としてシステムとしてそれを具現化し運用しているすごさ！

経済を実質の3倍の規模で回し1/3を手取りにし、2/3を税金として納める。2/3の税金で医療、介護、福祉、教育、インフラ、年金、軍隊を全てまかない手取りのお金はすべて使ってしまうても良い状態を作る。経済を3倍にするポイントは付加価値ですが、だからこそ金額に換算できないデザインを重視する。高くても売れる付加価値は「デザイン」という考えが町全体を貫いていました。わが日本と比較すると国としての集団としての思想・戦略・目的意識がまるで違うと感じました。

人生の終盤、体の調子が悪くなり病院でガンと診断されたら黙って家に帰り家族と静かに最期の時を待つ。そんな人が多いそうです。人生に悔いがなく、今に満足してなければできない行動だと思いました。さて、あなたは本当の幸せとは何だと思えますか？

本日は、以上です。

《来賓卓話（又は会員卓話）》



演題

「対自然・対人間・対自分」

所属 プロアドベンチャーレーサー

氏名 田中正人様

《卓話サマリー》

1. アドベンチャーレースは人間性を向上させたい、自分の至らなさを克服したいとの思いから始められたそうです。
2. このレースは、コースは決まっておらず、地図とコンパスだけを渡されるレースで、1～2週間の間で約500～800キロを移動します。睡眠時間は1日2時間程度。安全などは全く保障されておらず、すべてはチームが責任を負います。このレースでは常に困難が降りかかってきます。そこで必要になってくるのが、タイムよりもチームワークです。チームワークに必要なのは人間性です。

体力よりも人間性が問われるために、若い選手よりも40歳前後の選手の方が強いそうです。

3. レースの中で、川には橋がかかっておらず、最悪泳いで渡ることもあります。兎に角すべては自己責任。他人のせいには絶対にできません。チームのメンバーに何かあれば、それは全て自分事として考え、そこに人間性を成長させる醍醐味があります。強くなければ自分の弱さを享け入れられない。
4. コンプレックスで守ってしまうのが一般的だが、そこで自分にできる事は何か？を考え行動することがとても大事である。そこからチームビルディングが出来てくる。
5. このアドベンチャーレースを通じて、この大切さを全国に広げたいと活動されております。最近ではクレイジージャーニーでも特集され、来年1月も2時間スペシャルで放送される予定です。

《所感》

この過酷なレースから得られるものは常に自分との闘いであり、誰かの為に本当に考えることができるのか？という事を極限状態で自分を試されている素晴らしい方だと思いました。また、本気で何でもやらなければ物事は達成できない、という事を学びました。人生も社業も同じです。誰かのせいにせず、すべてを自分事として考えて行動できる人間になりたい、と改めて感じました。

《スマイル報告》

高田 雅司君（結婚記念日の御礼）

伊藤洋一郎君（結婚記念日の御礼）

由利 浩志君（誕生日の御礼）

川崎 依子君（誕生日の御礼）

塚田 義生君

先週の卓話と迷いネコの飼い主が見つかることを祈念してスマイル

稲森 敦子君

本日のプロアドベンチャーレーサー田中様の卓話に感謝してスマイル

宮崎貴久君

12月3日の西オーストラリアアイアンマンレース完走に感謝してスマイル  
(会報作成 藤田 尚徳)